教令類纂

初集一二

禁中并公家

第十六号

9

保3
965
2

門 7 係3 965 2 卷

同會

禁中并公家ノ部

慶長十八癸丑年令

公家諸法度 ○寛永十二年令ニ追加アリ 令條ニ從ヒ公家諸法度ト改ム 小ノ條ノ事ヲ略ス

一公家衆ハ學問藝能ヲ第一ニ可勵事

一不寄先例被立新儀事 ○寛永十二年令ニ追加アリ 令條ニ從ヒ公家諸法度ト改ム 小ノ條ノ事ヲ略ス

一公家衆ハ可令清廉事 ○寛永十二年令ニ追加アリ 令條ニ從ヒ公家諸法度ト改ム 小ノ條ノ事ヲ略ス

一公家衆ハ不可蓄甲冑鑓鉄砲事 ○寛永十二年令ニ追加アリ 令條ニ從ヒ公家諸法度ト改ム 小ノ條ノ事ヲ略ス

一公家衆ハ不可致狼藉事 ○寛永十二年令ニ追加アリ 令條ニ從ヒ公家諸法度ト改ム 小ノ條ノ事ヲ略ス

一公家衆ハ不可好異類異形

弘化元甲辰年改元

弘化元甲辰年七月

禁中並公家中法度

一 天子諒闇被　仰事有之候間百官
　 諸事古通之政務被　仰合候事
　 （後文ニ天保十四年ノ誤ト有リ）

一 武家之儀書札等之儀ハ和歌ニ
　 准候事

一 三公ハ親王之上座ニ着座候事

一 清花大臣家之儀ハ親王之次座ニ着座候事

一 院参輩ハ布衣以上ニ限候事

一 公卿殿上人ハ不及申上候事

一 養子ハ連帰仕候事勿論ニ候得共実子有之候ハヽ
　 家督ニ立候事ハ不苦候事

一 武家ニ而官位之儀ハ当家之官位ニ准候事

一 院参之儀ハ不及申上候事

一 院参輩ハ諸事古通之政務被　仰合候事

一 公卿殿上人ハ親王之上座ニ着座候事

一 清花大臣家之儀ハ親王之次座ニ着座候事

一 院参輩ハ布衣以上ニ限候事

一 公卿殿上人ハ不及申上候事

一 養子ハ連帰仕候事勿論ニ候得共実子有之候ハヽ
　 家督ニ立候事ハ不苦候事

一 武家ニ而官位之儀ハ当家之官位ニ准候事

一改元漢朝年号ヲ以テ例ヲ為ス事

一天子礼服大神宮御遣使ノ節ハ小垂衣ヲ着ス事

一

一御着袴ノ節ハ雑袍ヲ着ス事

一

一

一

一 院号之称号 先例 有之哉事

一 摂家門跡之内 親王門跡次座 御当三ヶ時 院号 親王 上臈次座 大臣之次座 丁 准后門跡事

一 僧正 大正 門跡 院家之内 准后 宣下之例 無之哉事

一 門跡 院家之内 准后 宣下之例 無之哉事

一 門跡 院家之内 准后 宣下之例 無之哉事

一 宗旨之寺位 勅諚之事 旦那 懇望之事 有名無実之 院号 称之事

一 上人号之事 権currently 宗旨之内 勅許之事

一 勅許 仏師 仁和寺法橋 及二十年 之内 拝任 之例 有之哉事

右条々事 書之如件

慶長二十乙卯年七月日

二條殿判
昭實

公方様 御判

石清水度 十三年制度 慶長元
廿七箇條家康秀忠服実之判
大判 御判

慶長十年四月廿日 関東之條令 慶長大判 御判
如図文字形可造加判之
寛文九己酉年三月廿日

光平 在判
家綱 御判

禁中方御條目并公家中諸法度等通禁裏御所可
遵行之

上皇 御判
敕諚公家中諸法度可遵行之

六月廿

久世大和守之判
稲葉美濃守判
阿部豊後守忠秋判
酒井雅楽頭忠清判

寛永二丙寅年十月廿日 條々
一 大猷院殿御實紀附錄 巻廿二

一門出入之事

一女上不出入之事

一在所之義ハ

一らく中よりや出ハ

出ハ之事

一女上ハまゝ

一せんくさ

大こく

一寺社

一せんくさ

一寺社

一寺社

一そもし

一ハ

[illegal]

寛永二丙
寛永三年十月廿日

[illegal]

[illegal]

[illegal]

右慶応令條　慶応孔
　　　　　　嘉永孔

嘉永五子年二月六日

駒井左京亮山崎宿ゟ
御用状ニて差越

覚

一、今度　陳参府　御暇
　　被仰付候ニ付　御国
　　御慣例ハ之御使ニ
　　御太刀馬代
　　被進候事ニ候ヘ共
　　此度ハ
　　御暇ニ付
　　被進候ニ及ハす候事

令條
格之外利伝

一、来使ニ事ニ付ては
　　御太刀馬代
　　被進候ニ及ハす候事

一、大坂定宿ニ而
　　御馳走
　　被仰付候ニ付
　　御国
　　御慣例之
　　御太刀馬代
　　被進候ニ及ハす候事

一、諸事ニ付
　　御国
　　御慣例之
　　御太刀馬代
　　被進候ニ及ハす候事

一、今度
　　御暇ニ付
　　御太刀馬代
　　被進候ニ及ハす候事

一、御国
　　御慣例之
　　御太刀馬代
　　被進候ニ及ハす候事

一、江戸ニ而
　　御馳走
　　被仰付候ニ付
　　御国
　　御慣例之
　　御太刀馬代
　　被進候ニ及ハす候事

一駄候而御陽気ニ
汁ニしまつの
油花柳ニ使ふ
寛永十八年二月
寛永実録
寛永十八辛巳年二月十
京都町奉行
板倉周防守重昌ヨリテ京師ニ赴
カシメ給フ十三箇條ノ御書ヲ重昌ニ賜ル重昌
コレヲ持シテ江戸ニ發ス

一院御事ニ候
つゝしみ
一二階御座
御成ハいたし
汁すゝ
一新敷御殿
御ちやうず
一天幕御書
一天晴ニ

寛永七庚午年七月廿二日

板倉周防守重宗朝臣

薨去

一廿二日御所御能ニ後陽成院御幸ニ付而御能ニ九月上旬迄御逗留之事

一御所御能ニ女院御幸ニ付而御能ニ御逗留之事

一御能ニ後陽成院御幸ニ付而御能ニ御逗留之事

一御能ニ後陽成院御幸ニ付而御能ニ御逗留之事

一院女院御幸ニ付而御能ニ御逗留之事

一攝家衆ニ御能ニ御逗留之事

一又家衆ニ御能ニ御逗留之事

一院女院御幸ニ付而御能ニ御逗留之事

一院女院御幸ニ付而御能ニ御逗留之事

一板倉内膳正家督ニ被仰付之事

一供奏之事

一武家官位事 奏聞 禁中並

一法皇御葬送 供奉 院司 上卿 弁 外記 史 陪従 公卿勅使 参議 弁 少納言 外記 史 陪従

一諸事西人之法可倣之事

一諸事倣西法之時新設之局務多端而舊來之官員不足以當之事

一外交往來之事必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一警法之事必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一凡諸事倣西法之時必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一諸事倣西法之時新設之局務多端而舊來之官員不足以當之事

一外交往來之事必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一警法之事必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一凡諸事倣西法之時必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一諸事倣西法之時新設之局務多端而舊來之官員不足以當之事

一外交往來之事必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一警法之事必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一凡諸事倣西法之時必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一諸事倣西法之時新設之局務多端而舊來之官員不足以當之事

一外交往來之事必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一警法之事必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一凡諸事倣西法之時必須公法家并法學人與聞其事之時　朝廷得參考之事

一百ヶ条之外之書判之事

一たく仕置掛落之儀ニ付公事訴訟之儀ハ不及申上事

一御仕置ニ而被仰渡之趣不相背様ニ可申渡事

一諸事一統ニ成共又ハ隔年ニ成共大乱人ニ而無之候ハヽ不及申上

兼應二癸巳年九月吉日

覺

今度御觸之例帳後納之村方名主百姓等
太敷取扱之旨被仰渡承知奉畏候然ハ
浄福寺ニ於テ之義及対談候ハヽ
成ル丈取扱可申候事

一此上御触之趣ニ浄福寺ニ於テ違背
例帳後納ニ関シ不埒之村方有之
候ハヽ
言語道断之事ニ候間
急度可申付候事

一例帳後納ニ付村々名主百姓等
ニ而取扱候ハヽ
浄福寺ニ於テ
急度可申付候事

一例帳後納ニ付村方ニ而取扱候
ハヽ
浄福寺ニ於テ
急度可申付候事

一例帳後納ニ付村方ニ而取扱候
ハヽ
浄福寺ニ於テ
急度可申付候事

一例帳後納ニ付村方ニ而取扱候
ハヽ
浄福寺ニ於テ
急度可申付候事

一例帳後納ニ付村方ニ而取扱候
ハヽ
浄福寺ニ於テ
急度可申付候事

一例帳後納ニ付村方ニ而取扱候
ハヽ
浄福寺ニ於テ
急度可申付候事

一例帳後納ニ付村方ニ而取扱候
ハヽ
浄福寺ニ於テ
急度可申付候事

兼應二年九月十七日

伊豆
濱成
雅樂

右條々

板倉周防殿

兼應二甲午年三月日

一今度禁中并仙洞御所御修理ニ付而諸国ゟ人夫召寄候ニ付而、板倉周防守殿ゟ被仰渡候事

一喧嘩口論ハ制禁ニ候処、剰罪科ニ及候事

一河事ニおゐてハ十ヶ年ニ一度之御普請ニ候間、其節ハ諸国ゟ人夫召寄候ニ付而、其外一切平和之時ハ召集ニ及ハす候事

一人返し之御公儀ニ而被仰付候ハヽ、其時ハ人夫ニ不及候事

附押買押売之事

右之軍事ニ而ハ無之候事

永井信濃守殿ゟ被仰渡候ハヽ、板倉周防守殿ゟ被仰渡候事

一喧嘩口論ハ制禁ニ候処、剰罪科ニ及候事

一河事ニおゐてハ十ヶ年ニ一度之御普請ニ候間、其節ハ諸国ゟ人夫召寄候ニ付而、其外一切平和之時ハ召集ニ及ハす候事

附押買押売之事

右之軍事ニ而ハ無之候事

第慶三年三月

御黒印

石條令　拾三年ヨリ制限

條々

一今度洋事中萬事・奉行・筆頭・支配・帳
下人等不法不束之事
一小屋中ヨリ勝手ヨリ人等不法之儀等ニ付而ハ
一ヶ所ニ而ハ勿論ニ而ハ
一ヶ所ニ而ハ勿論ニ而ハ

一江戸表ニ而ハ不及申ニ
江戸表ニ而ハ勿論ニ而ハ
一軒役ニ而ハ勿論ニ而ハ
一諸役ニ而ハ勿論ニ而ハ
一諸役ニ而ハ勿論ニ而ハ
一諸役ニ而ハ勿論ニ而ハ
一諸役ニ而ハ勿論ニ而ハ
一諸役ニ而ハ勿論ニ而ハ
一諸役ニ而ハ勿論ニ而ハ
一諸役ニ而ハ勿論ニ而ハ

一
一
一
一
一
一
一
一

布令條記　十三年制法　令條

明治元年未年閏四月十日

對陰陽訴訟事目

第一

一官位并表向之儀一切出ノ如關東

一惣而御用筋之儀　對陰陽訴訟ニ及ハ不苦

禁中　仙洞　攝陰對訴訟ニ及ハ不苦

一運送之儀ハ兵粮之外　對陰陽訴訟ニ及ハ不苦

御家領之儀ハ除之外一切ニ對訴訟ニ及ハ不苦事

一並官位并表向之儀ハ家元ニ於テ　對陰陽訴訟ニ及ハ不苦

自表ニ而取扱ニ事

一御幸之儀　仙洞　攝陰　對陰陽訴訟ニ及ハ不苦

禁中

如院宮向ニ對シ訴訟ニ及ハ不苦事

附リ　院參之儀ハ　院參之家ニ人ニ依テ二人充ノ事

以上

義應元年閏四月

布令記　十三年制法　慶應令條

一御幸之儀ハ家元ニ於テ　對陰陽訴訟ニ及ハ不苦事

石巌制限　慶応
十三年四月制定

一 火事之節ハ兼而申渡候通ニ可相心得候事
但宵ハ兼而申渡候ニ付
一 町方之儀ハ不及申（男女ニ寄）一切入申間敷事
一 奥掃除之節ハ兼而申渡候ニ付
一 鉄砲ハ（禁）申渡候ニ付
一 万一病気之者有之候ハヽ（さしつかえ）無之様ニ可致候
一 諸事（心）得ニ候義ハ（心）得違之無様ニ可致候事
右之通（心）得ニ候義ハ（心）得違之無様ニ毎々申渡候事

一 御用ニ付（ハ）不及申（ニ）候ハヽ（ニ）而も（ハ）他人（ニ）被（ハ）遣（ニ）候ハヽ（ニ）而も（ハ）他行（ハ）堅（ク）可致（ニ）候事
一 堂上方（ハ）勿論（ニ）而（ハ）諸大名方（ニ）而（ハ）他行（ハ）勿論（ニ）而（ハ）新規（ニ）被（ハ）遣（ニ）候ハヽ（ニ）而も（ハ）他行（ハ）堅（ク）可致（ニ）候事
可申事

石像ニ付（キ）而（ハ）
別而（ニ）大事（ニ）候間
石像令
中川飛騨守殿
原津越中守殿

寛文二壬寅年二月十六日

一今度　禁裏御修理御事中和門院様御
出来ニ付而　御国ニ而御祝儀
被成候事

一喧嘩口論御制禁ニ候為一有過怠
慶仍罷加論令之旨ニ背輩
有間事

一自然喧嘩口論之事
附押買押買法事
一人返ニ候前令停止事
人ニ連義ニ而
石銀等ニ而
寛文二年
石令停止
寛文二壬寅年二月十六日　光
一今度御事中奉行ニ
覚

贊

一 神祇官諸社禰宜祝等之内有故闕怠者可被除替事

一 神社之内有故闕怠者可被除替事

一 神社禰宜祝等之内有故闕怠者可被除替事

一 神社禰宜祝等之内有故闕怠者可被除替事

一 神社禰宜祝等

第三大阪裁判所

寛文八年申年四月吉日

贊

一云年七月廿六日 院御所ゟ
御上洛之条々今年ハ
日次悪敷候間 御延引
一年秋ニ御遷幸候様ニ
宗旨ニ拘候寺社領新規
御寄附ハ不苦候間
一宝永ハ 後水尾院
御在世ニ候間 御
慥ニ候様ニ 御
好ニ候共 御
此上

申卯月十六日

寛文九酉年閏十月

一来月ハ 院 御
ゟ御上洛中ニ
尾張殿 甲府宰相殿

寛文八年申年四月吉日

贊

一云年七月廿六日 院御所ゟ
御上洛之条々今年ハ
日次悪敷候間 御延引
一年秋ニ御遷幸候様ニ
宗旨ニ拘候寺社領新規
御寄附ハ不苦候間
一宝永ハ 後水尾院
御在世ニ候間 御
慥ニ候様ニ 御
好ニ候共 御
此上

申卯月十六日

寛文九酉年閏十月

一来月ハ 院 御
ゟ御上洛中ニ
尾張殿 甲府宰相殿

奪 權衆ト 御占ニ
於平傳馬ニ 行連遣ス 宗對馬ノ
儀同之儀ニ
奪ト 權衆ト 御占ニ 御家ノ教旨 當ト 凶兆ニ
阿部豊後守ニ 久世大和守ニ
五屋得ル ニ 教旨ヲ
於奈良仕ル 教部法印ニ
奪ト 權衆ト 御占ニ 御家ノ教旨 當ト 凶兆ニ
宛 如浣御占ニ 凶兆ニ教
奪大成ル

天保甲辰九月校 寿永元季秋再校

梅雨中并ニ其ノ前後ノ時節ニ
町中ニ而水溜リ等無之様可
致事

定免ニ相極候事　五月

一去ル九月　梅雨中ニ限リ
三日ノ内停止ノ仕合ニ
申渡候ニ付

六月

右ノ通ニ候間　町中ニ而
水溜リ等無之様可
致事

定免ニ相極候事　十月

太政官符
延喜條　旧令集

寅喜四年二月
　　御即位御禊散齋已
　　一限二日
　　一日致齋
　　一限二日
　　一日致齋
　　一限二日
　　一日致齋

一月廿日

仰上

右之通被仰渡候ニ付而ハ
前書之通ニ而ハ仰渡候
事ニ有之哉
尤書面之内仰渡候
文言ニ而ハ
不分明之廉
有之哉ニ
付
猶又
御伺申上候
以上

寛享四子年
御伺候付而
被仰渡之覧

一弐拾万石以上
一十万石台拾万石迄
右之通毎年
御年貢
及被仰渡候
以上

大隅守

一若干
一若狭

元禄九丙子年十二月
一米壱俵 御入用ニ付
両人ニ被仰渡候ニ付而ハ
両人ニ被仰渡候
文言ニ而ハ
禁裏ニ
御差支
候哉
尚又
御伺申上候
以上

黄金二枚

女御子 白銀製拵打刀 一腰
紅絹大納之殿 甲斐中納之殿 尾張中納之殿
水戸宰相殿 御太刀馬代 黄金二枚
梅宮薨ス 御太刀馬代 黄金二枚
女御子 白銀張拵打刀 一腰
尾張大納之殿 紀伊宰相殿
梅宮薨ス 御太刀馬代 黄金壱枚
女御子 白銀張拵打刀 一腰
水戸中納之殿 田中将殿
梅宮薨ス 御太刀馬代 黄金壱枚

女御子 白銀製拵打刀 一腰
紅絹大納之殿 御太刀馬代 黄金二枚
梅宮薨ス 御太刀馬代 黄金二枚
女御子 白銀張拵打刀 一腰
水戸宰相殿 紀伊宰相殿
梅宮薨ス 御太刀馬代 黄金壱枚
女御子 白銀張拵打刀 一腰
尾張大納之殿 田中将殿
梅宮薨ス 御太刀馬代 黄金壱枚
女御子 白銀張拵打刀 一腰
梅宮薨ス 御太刀馬代 黄金二枚
女御子 白銀張拵打刀 一腰
梅宮薨ス 御太刀馬代 黄金壱

従五位下行大膳大夫　丹羽左京亮
従五位下行遠江守　松平淡路守
従五位下行大和守　松平伊賀守
従五位下行大膳大夫　松平越後守
従五位下行大和守　松平甲斐守
従五位下行大膳大夫　松平越中守
従五位下行大和守　松平阿波守
従五位下行大膳大夫　上杉弾正大弼
従五位下行大和守　松平下総守
従五位下行大膳大夫　有馬玄蕃頭
従五位下行大和守　松平土佐守
従五位下行大膳大夫　小笠原右近将監
従五位下行大和守　松平播磨守
従五位下行大膳大夫　松平淡路守
従五位下行大和守　松平相模守
従五位下行大膳大夫　松平中務大輔
従五位下行大和守　松平出羽守
従五位下行大膳大夫　松平大学頭
従五位下行大和守　松平越前守
従五位下行大膳大夫　黒田豊前守

従五位下行大和守　松平豊後守

右大広間之

従五位下行大膳大夫　松平佐渡守

寛永六巳年十月廿日

御太刀馬代　白銀弐枚

従五位下行大和守　松平信濃守

日限之儀ハ無御座候間追而可被仰渡候

依委細松平紀伊守
傳之口上書
申渡候間不及
書取候以上

十月

松平安藝守
松平薩摩守
酒井左衛門尉
井伊掃部頭

松平越後守
細川越中守
白浪新五

松平讃岐守
松平長門守
松平兵部少輔
松平兵部大輔
伊達遠江守
井伊掃部頭

松平越後守
細川越中守
白浪新五

松平讃岐守
松平長門守
松平兵部少輔
松平兵部大輔
伊達遠江守
井伊掃部頭

松平安藝守
松平薩摩守
酒井左衛門尉

松平讃岐守
柳営武鑑ニ掲
伊達遠江守

松平越後守
松平大膳大夫
南部信濃守

大久保加賀守

有馬玄蕃頭
松平肥後守
松平右馬頭
松平左京亮
酒井右京亮
白浪新五

松平讃岐守
京都所司代
阿部豊後守
上杉民部少輔
本多佐渡守
松平隠岐守
松平出雲守
蒲生下野守

松平肥後守
松平土佐守
松平阿波守
松平長門守
松平兵部少輔
松平兵部大輔
伊達遠江守
井伊掃部頭

松平土佐守
仙台宰相
松平出雲守
海野雅楽助
小笠原左近将監
蒲生下野守
松平阿波守
松平大和守

河歌院号　　井春峯
湖月亭　　菊岡保寿
帝下方　帝馬代　　吉根春枝
松年春雯　　松年秀鏡
松年中務尉　　松年春峯
駿国観号　　古住保寿
菊岡豊号　　松年春雯
松年豊信号　　森川周阿号
松年朝号　　松年住号

古叙今

寛永七庚寅年七月
日光権兵衛中ゝ名を以て差下す
山川の絵図と改定めて差下す
この事 弥勢助の名を借ゝ 芸当業家伝人
不詳寸波庵の事 摂津国 御料 編年類聚
古今 男女山水 草木 禽獣の事を
書とし 絵図ゝ信ずる事 天地 陰陽 五行
の事 編とは陰陽五行の事ゝ 前の儀如
ゝ事ゝ也 ゝ

当所使右之敷之内

十月

御厨役所役務敷之儀

楽屋

一御方　白銀弐枚

一御方　白銀三枚

一御方　白銀拾枚

仙洞

一御方　白銀弐枚

一御方　白銀拾枚

女院

一御方　白銀拾枚

一御方　白銀五枚

一御方　白銀三枚

新女院

一御方　白銀五枚

大寺院

一御方　白銀五枚

女院

一御方　白銀拾枚

一御方　白銀五枚

一御方　白銀三枚

新女院

一御方　白銀五枚

大寺院

一御方　白銀五枚

三拾万石以上

弐拾万石以上三拾万石以下

北方右之内

但西方右以下之敷之儀

弐拾万石以上

弐拾万石以下壱拾万石以上

北方右之内

但西方右以下之敷之儀

三拾万石以上

弐拾万石以下壱拾万石以上

北方右之内

但西方右以下之敷之儀

一条殿様

右之通　御朱印被
仰付候ニ付奉書ヲ以申上候
以上

十月　日

正徳元年　卯年　十月廿日

覚

一京都ニ而年始之御使ヲ
以御朱印被
仰付候節者
御用見共ニ
御小
納戸ヨリ
御下知ヲ以為
御取次

一当年御使又ハ御名代
ヲ以
御朱印被
仰付候節者
御用見共ニ
御小納戸ヨリ
御下知ヲ以為
御取次

右之通

二月　十四日ニ
卯年御定ニ
相成

古賀四介様

正徳元年　卯年　十月

績様之事

京都近国　摂家
仙洞御料
寺々ニ而
境

[illegible]と書付[illegible]
り 禁裏仙洞御[illegible]
ハ 小科之名料有[illegible]
寄組名料[illegible]
る 法名料[illegible]
希之[illegible]
外書付[illegible]
書改之[illegible]
右之御[illegible]

正徳元年卯年七月[illegible]日

一 町中[illegible]毎ニ宿[illegible]
木[illegible]有之[illegible]
中[illegible]
七月

右之御[illegible]

正徳元年卯年七月十日

一 町中[illegible]毎ニ宿[illegible]
書改[illegible]

七月

右之通承届候事

正徳二壬辰年三月十六日　勘解由次官

勘解由次官殿

河辺善右衛門豊前守殿

辰三月

右之通承届候事

勘解由次官

河辺善右衛門豊前守殿

作左衛門

勘若狭

禁裏ゟ　御使ニ而

禁裏ゟも　御使ニ而

河辺善右衛門豊前守殿

作左衛門

勘若狭

仰蒙候旨ニ而

勘解由次官殿

三月　日

勘解由次官

河辺善右衛門豊前守殿

作左衛門

勘若狭

中書ニ

禁裏ゟ　御使ニ而

作左衛門

禁裏ゟも　御使ニ而

勘若狭

中書ニ

元若御引移ニ付 先ニ
御通答ヘと 勅答ヲ以
ニ付而ハ御勘考被
下度旨ニ付 特書ヲ以
先ニ御通答又ハ 御通書ヲ以
被下候ニ付而ハ 御勘考方共
勅ニ及ハス 御勘考ニ
被成候事ニ

三月廿日

重條
保春

元禄二年 三月

御通答ヲ以 勅答ヲ
禁書 御勘考ヲ以
済ム

右書付ヲ以参上ス

勅使中納言殿
参大納言

勅使中納言殿
御通答ヲ以 御勘考ニ
及ハス

辰三月

元禄二年 辰三月

廿五

摂官言　帝有方悪之行御薬如先
如先報可載以官符　仍仰
上下諸社并諸寺依

廿四

尾張中嶋毛屋　託伊中嶋毛屋
伊予年穀毛屋
廿五

摂官言　帝有方悪之行御薬如先
如先報可載以官符　仍仰
上下諸社并諸寺依

廿六

右書符百万枚令摺
令大膳令

廿七

元慶四年二月廿日　大和國言
帝行制停重事之物申寶永七年十月
注律　律云
勅符之類不在此限　帝初踐祚
中右記　帝王說又帝王
即天皇之事也　帝通音不仍此

付

贈

一 禁裏 院中御仏事を始め毎年に勅使を以て之を
　 贈り又 御所御所の毎々との
　 思召の事なり 御所方御定数を初め
　 諸役の事なり 御所御所の御仏事を始め
　 法の中等も毎年相応に勅使を以て
　 遣さるゝ事なり
一 将軍家 毎年張行尾張の中将殿

事なり 御所御所方
より 禁裏 院中へ毎々 御所御所へ毎々
贈り 献上 奏の元服を初め
御仏事 毎年 将軍家 御代々
御法事 御所方 御定数 御役人
御名代 御使者 御進物 御返礼
御使者 御名代 御進物 御返礼
御使者 御名代 御進物 御返礼
御使者 御名代

以外よりの訴訟の時ハ奉行方より答書のこと
又ハ指紙をもつて呼出しも是又前例之通たるへき事

一 二條御番衆東
文
寅番之方よりハ寅番
所番衆以下の死亡に対面よりハ御城へ御届
一 御城内御番衆ハ勿論の事諸役人ニ至迄
御番つゝきの内ハ不断
一 上方諸役人中ニ
被
御番衆ハ勿論御奉行衆ニ至迄
海もれ無御奉行衆ニ御届申ハのみならず
其ニ応し御届ニ及ぶへき事

中勤方ハ不及御届ニ
ニ及ハ御届ニ及ぶへき事

一 上方諸役人中ニ
未
御番衆ハ勿論諸役の面々
御番つゝきの内ハ不断ニ
御届ニ及ぶへき事

一 諸役人中ニ
病
或ハ風邪
ニ而近江丹波播磨小笠原の
ハ月
ニ
帰国ニ
ニ而
ハ
ニ
ニ
ニ

小松傳右衛門事
筆申入候旨小松
出之候ハゝ
屋敷
一郡藩家門の
一京役人の
ゟ
一關東ゟ
り
波國中
右傳
十月
一海中
ゟ
一海中
ゟ
ゟ
ゟ

覽

一 祭典之服 香 嫁ス

一 祭典之節 儀衣服 別段定メ置キ 其外一切之葬儀ニ至ル迄 毎事 倹約ヲ旨トシ 奢ヲ禁ス

左ノ通リ

松平能登守

久世大和守

阿部豊後守

井上河内守

土屋相模守

水野和泉守

一 諸家官位昇進之節 御礼トシテ 白銀 金子 差出ス可キ由左 但 従前ヨリ差出来候分ハ 其儘タルヘシ

徳川家官位昇進之節 御礼トシテ 白銀 金子 差出ス可キ事

附 御新造 嫁 御子様方 御官位昇進之節 御礼トシテ 白銀 金子 差出ス可キ事

等勿差滞候様可被申渡候
一 言語被下候而
父子共ニ勤等ニ
御奉公の面々
能御褒美被下候
残ル者共も
右之通被仰渡候
中後藤ゟ
西御丸ニ
元田ゟ

十月廿日

被仰渡候

御老中方ゟ
久世大和守
阿部豊後守
井上河内守
土屋相模守
松平能登守
山田伊豆守
御用番
御老中

一 院中方ゟ被
仰渡候事
一 両人並ニ被
仰渡候

一御所御領者各別之事ニ候ハヽ
惣而御所御領ニ準シ
右條々可被申付者也
　　元和元年　月　日

法皇御所并女院
御領ニ準シ山田伊勢守
傳ヽ

一院中御所ニ準シ
小の御門事

御所女院御所ニ準シ
一醫陰ヽ之事
御所諸職人陰見ヽ
一火ヽ之用心堅可申付事
一喧嘩事御所内外ニ
中付ヽ事又新儀
之事同仕ヽ
一諸方御料方御
改ヽ事御
ヲヽセらるヽ事

一堂上方ニ而毋中方ニ而ハ
作法を相守
勤候筈ニ候
ニ而ハ
右之段
相守
右之通
慶長十三戊申年七月廿日

執奏
也
右之趣
慶長十三年七月廿日

執奏
諸事
慶長十三年七月廿日

○右條令
施行度十三ヶ条御制法御觸書

慶長十三戊申年
執奏
ニ而
聴
慶長十三年七月六日

同當紀之事之禁之一切不為之事
勅書收之說判明治
曲事作如何等之
處事件之
○十三年御制法之勅書同書
近年條約有為之通礼
當敢今作
有此之作
慶長十三年申酉六月　　檢視掛　御判
○勅十三年御制法之
參考之備ふ
右條令　御制法發御制法
御制書

鞫通之事一治為白編之
子孫事一事之事
義作為之事小銀
慶長二年　月　日

○令條記又存之時軍兵
新編ニ所歸之右事也ト
ル

鞫通治為之家
御師範之役割為
門弟之事作當代
弟子事有之候

十月廿二日　　義澄判

十月廿二日　　義澄判

鞍通代々御判形之内ニ而雖為一切不可有之候、於向後ハ、
被成御教書并奉書ニ、可被仰出候、
若又被成御内書ニ、被仰出候ハヽ、
其時ハ、可為御下知候、
仍状如件

寶徳三年十月廿二日　　義政判

鞍通代々御判形之内ニ而雖為一切不可有之候、於向後ハ、
被成御教書并奉書ニ、可被仰出候、
若又被成御内書ニ、被仰出候ハヽ、
其時ハ、可為御下知候、
仍状如件

寶徳三年十月廿二日　　義政判

鞍通代々御判形之内ニ而雖為一切不可有之候、於向後ハ、
被成御教書并奉書ニ、可被仰出候、
若又被成御内書ニ、被仰出候ハヽ、
其時ハ、可為御下知候、
仍状如件

寶徳三年十月廿二日　　義澄判

鞍通代々御判形之内ニ而雖為一切不可有之候、於向後ハ、
被成御教書并奉書ニ、可被仰出候、
若又被成御内書ニ、被仰出候ハヽ、
其時ハ、可為御下知候、
仍状如件

寶徳三年十月廿二日　　義政判

鞍通代々御判形之内ニ而雖為一切不可有之候、於向後ハ、
被成御教書并奉書ニ、可被仰出候、
若又被成御内書ニ、被仰出候ハヽ、
其時ハ、可為御下知候、
仍状如件

寶徳三年十月廿二日　　義政判

鞍通代々御判形之内ニ而雖為一切不可有之候、於向後ハ、
被成御教書并奉書ニ、可被仰出候、
若又被成御内書ニ、被仰出候ハヽ、
其時ハ、可為御下知候、
仍状如件

寶徳三年十月廿二日　　義澄判

鞍通代々御判形之内ニ而雖為一切不可有之候、於向後ハ、
被成御教書并奉書ニ、可被仰出候、
若又被成御内書ニ、被仰出候ハヽ、
其時ハ、可為御下知候、
仍状如件

寶徳三年十月廿二日　　義政判

鞍通代々御判形之内ニ而雖為一切不可有之候、於向後ハ、
被成御教書并奉書ニ、可被仰出候、
若又被成御内書ニ、被仰出候ハヽ、
其時ハ、可為御下知候、
仍状如件

寶徳三年十月廿二日　　義政判

鞍通代々御判形之内ニ而雖為一切不可有之候、於向後ハ、
被成御教書并奉書ニ、可被仰出候、
若又被成御内書ニ、被仰出候ハヽ、
其時ハ、可為御下知候、
仍状如件

寶徳三年十月廿二日　　義澄判

鞍通代々御判形之内ニ而雖為一切不可有之候、於向後ハ、
被成御教書并奉書ニ、可被仰出候、
若又被成御内書ニ、被仰出候ハヽ、
其時ハ、可為御下知候、
仍状如件

寶徳三年十月廿二日　　義政判

[illegible]
[illegible]
[illegible]

西保四下 安永二年六月廿三日

[illegible]

寛文三年十月朔日 御字御判

右十三ヶ条御判形

龍雲井大納言殿

平成九年七月校了
此冊松樹院写